

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は、防災分野の地質技術者として、地すべり、土砂崩壊、岩盤崩壊、落石、土石流等に関する調査や対策方針の提案に携わってきました。

学生時代に学んだ、フィールドワークを主体とした地質学や、探検部という野外活動系の部活での経験が今でも仕事の原点となっています。

1997 年(平成 9 年)に就職してから多くの業務に従事してきました。当初は地質のことしか知らない私でしたが、現場経験が増えると共に、関係各位のおかげで、初歩的なものではありますが、その周辺の知識(気象、対策工、植生、インフラの維持管理、リスク管理、災害関連の法規など...)も身につけてきました。このことでコンサルとしての役割がより円滑に果たせるようになったと思います。

また、長きにわたって担当している道路防災点検業務では、豪雨や地震に伴う深夜・休日の緊急出勤もしばしばでしたが、数々の異常時の自然現象を目の当たりにできたことは貴重な経験でした。2004 年(平成 16 年)の新潟県中越地震、2008 年の四川大地震の際には、被災後まもない現地を歩く機会がありました。その頃から、現場をみる際は、最悪の事態を一度は疑うよう意識するようになりました。

これからの時代、予算等のコストが限られていくなかで、効果的に国民の安全を確保していくには、災害要因の抽出だけでなく、リスクの評価をより的確に過不足なく行っていくことが重要と思います(技術力が至らないと、過度に安全側の対策方法をとらざるを得ない場合があります)。そのために、地形や地質に関するより高度な知識や考察力と、過去の災害現場から学ぶ視点が重要と考えています。少しずつですが、地表踏査や地形判読といった基礎的技術の研鑽と過去の災害事例の整理を続けています。

山 真典 (やま まさのり)

● 応用理学部門(地質)

勤務先

株式会社ドーコン
環境事業本部 地質部



→次号は、宮田善郁さん(建設部門)

私は大学を卒業してから、建設コンサルタントに勤務していますが、人の顔と名前を覚えるのが得意としていなく、サービス業としては向いていないのかもしれませんが、ただ、珍名のため周りのみなさんは覚えてくれ、やさしくしていただき助けられている毎日です。技術士を取得してからは職場以外の多方面の方々にお会いできる機会が増え嬉しく思います。

入社当時は技術と接客の両方が重要だと少しも思ってもいなく、年を重ねるごとにコンサルタント業の難しさを感じ、今更ながらサービス業の大変さを痛感しています。私は建設コンサルタント業界について医療業界と類似していることが多く感じています。専門性が高く分業化されているが、「地域のかかりつけ医」のように、身近な相談があり、多方面で、きめ細やかな対応が必要な時もあります。そして、技術者だけでなく、周りのスタッフの協力なくしては業務を完了することはできません。顧客に「ありがとう」と言われた時は技術者として、この仕事のやりがいを感じます。

いつの時代も先輩の良いところを学び、いやなところをスルーして後身に伝承するのは、大変なことだと感じる年になりました(人類の永遠のテーマかも)。入社して 25 年となり、若いころは先輩に分からないことを煙たがれるくらいよく聞きに行きましたが、いやな顔をせずに丁寧に教えて頂きました。今では逆に聞かれることが多くなり、その期待を裏切ることがないように日々研鑽の大切さを思い知らされています。今後も先輩技術者から多くの事を学び、後輩技術者の育成に努め、微力ながら社会に貢献していきたいと考えています。

老 敦史 (おい あつし)

● 建設部門(道路)

勤務先

株式会社
アサヒ建設コンサルタント



→次号は、菅原 治さん(建設部門)